

研究を続けていくこと

横浜市小学校社会科研究会

会長 梅田 比奈子

令和2年度は、学習指導要領の全面実施、全国小学校社会科研究協議会神奈川大会の年でした。そして、コロナ感染拡大防止の中で、様々な対応を迫られた年でもありました。研究会では、工夫と配慮を重ねながらの活動を続け、全小社神奈川大会も市社研の皆さんの協力を得て、実施することができました。

昨年度に感じたのは、皆さんの「学びたい」「研究したい」という思いです。毎月の研修会だけでなく、夕方からの授業づくり部会にもたくさんの参加者がありました。私たち教師にとって、やはり、改めて「よりよい授業を目指し、学び続けること」はとても大切だと感じる1年でした。

今も続くコロナ禍は、人と人との関係を希薄にしているといわれています。なかなか会食ができない、親しい人にも会いに行けない・・・そんな中で、社会は、今までにない変化の時を迎えているのかもしれませんが。リモートワークの推進、ステイホーム、様々な規制、社会の二極化、そのような中で、私たちは常に判断を迫られています。そして、よりよい社会とは何か、改めて自分自身に問われているように思います。

今年度は、全国小学校社会科研究協議会・神奈川大会が終わって1年目。その成果が問われる1年です。今年度も、研究主題「人の営みに学び、未来を創る子どもが育つ社会科教育～学んだことを社会や生活に生かす学習過程のあり方～」というテーマで研究を進めていきます。「人の営み」に学び、「未来をどう創っていくのか、そして、それはどういう社会であつたらいいか」は、今、皆で考えていかなければならないことのひとつでしょう。子どもたちが何をどのように学んでいくのか、そして、子どもたちが学んだ姿はどのようなものか等、子どもの姿で研究を進めていきたいと思えます。

GIGA スクール構想のもと、急速にICT化が進められています。社会科でもICTを活用して、より豊かな学びを構築していかなければなりません。変わる社会、変えていく社会、豊かになる教育機器、私たちが研究を続けていくことの意味は、ますます大きくなります。そして、その研究は、いつも子どもが真ん中にあるものでありたいと思えます。

会員の皆さん、一人ひとりが主体的に、研究会に参加し、仲間として学び合う一年にしていきたいと思います。